

学生年代への銭湯PRを目的とした広報活動

団体名 ● 石川県公衆浴場業生活衛生同業組合 / 代表者名 ● 高島悠 (学生支援課)

はじめに

地域住民にとって身近な存在である町の銭湯。今年度も廃業や休業が相次ぎ、金沢市では2020年3月現在で19店舗(内2店舗休業中)という状況になった。

今年度の取り組みとしては、学生年代を中心とする若者世代に、銭湯を知り利用を促す目的の広報誌を制作した。金沢市内の大学・短期大学に通う学生を本誌で取り上げ、市内で当時20か所の銭湯を紹介及びPRし、若い世代への継承を目指した。

活動内容

この企画には本学のほか、金沢大学、北陸大学、金沢学院大学、北陸学院大学のご理解を得たうえで、ダンス系サークルのつながりを生かし、各大学の学生にも出演協力いただき、各銭湯を巡った。

学生たちはやはりスーパー銭湯は行くが、町の銭湯は行く習慣がなく、昔ながらの番台や富士山の壁画、ケロリン桶やお釜式ドライヤーに目を輝かせていた。撮影・記事などは、かなざわおふろ旅ナビゲーターとして委嘱された金沢星稜大学 学生支援課の高島が主となって金沢銭湯GUIDE制作に携わった。内容としては、銭湯の歴史紹介、銭湯早見表(全20銭湯の施設・設備など)、県大学ダンス連盟の紹介、銭湯ガールズ紹介、かなざわおふろ旅スタンプラリーカード付きという盛りだくさんの内容となっている。

また、本冊子に出演協力いただいた市内各大学の11名の学生で「銭湯ガールズ」を結成し、新聞を始め、多くのメディアにも出演し、銭湯の魅力を媒体を通じて発信した。



学園から一番近い銭湯「百乃湯」にて。

成果、結果の考察

- ・ 金沢大学 200冊
- ・ 金沢学院大学 100冊
- ・ 金沢学院短期大学 100冊
- ・ 北陸学院大学 100冊
- ・ 北陸学院短期大学 100冊
- ・ 北陸大学 200冊
- ・ 金沢星稜大学(大短900冊)



以上の大学へ上記の冊数を送付し、学生の目の届く場所に設置することで、銭湯の紹介及び利用促進を広めた。

結果としてはわずかではあるが、2020年3月までは約20名の学生年齢層の若者がスタンプラリーを制覇し、かなざわおふろ旅マイスターの称号を得ている。そしてその多くが県外出身者だった。

今後の課題、展望

若い世代の「外風呂」のニーズは、町の銭湯ではなくスーパー銭湯にあることは明白であり、そんな中でこの古き良き生活文化を伝え、足を運んでもらうにはどうすればいいか、引き続き学生と共に考えていきたい。ワンコインで体の芯まで温まる銭湯に、みなさんも足を運んでみてはいかがでしょうか。

「金沢銭湯GUIDE」はこちらよりダウンロードできます。

